５．哺乳類

５－１　哺乳類相の特徴

岐阜市は南北を底辺にほぼ正三角形で、面積は 202.89km^2 である。北側に沿うように標高 417.9m(百々ヶ峰)を最高峰に丘陵を形成し、山間をぬって北東から南西に南下する長良川をはさんで市街地が発達し、残りは田畑に利用されている。市の北西部は本巣市と山を共有しているため、季節によって、大型動物の市内への移動が認められる。

哺乳類調査では 2005 年度以降、自動カメラおよび捕獲による現地調査を実施しており、本事業の 2009～2013 年度では轢死体および標本による確認などを含め、主に自動カメラによる生態写真撮影によるデータの正確性を重視した。

その結果、表 5-1 のとおり 7 目 18 科 35 種(イエイヌ、イエネコを含む)の生息を確認した。2000 年に出版された岐阜市自然環境実態調査報告「自然環境と保全」は、写真やデータが記録されていない。このため、今回は写真による記録を行うことに努めた。また今回の調査では、新たにコウモリ類 3 種のほかヒメネズミ、ツキノワグマが確認できた。

調査での特筆すべき点としては、特定の年だけ移動していたツキノワグマがクリを食べた跡(クマ棚)が 2 箇所で確認出来た。またヤマコウモリとヒナコウモリが市街地で保護された。このうちヤマコウモリは冬季に民家をねぐらとして利用していたことが確認できたことと、活動期において民家以外の 2 ヵ所で生息を確認できた。ヒナコウモリは右前腕骨が折れた状態で保護された。

調査の結果から、高山帯から山地帯に生息する種、森林や洞穴に生息域やねぐらをもつコウモリ類を除き、ほとんどの種が岐阜市内で生息を確認できた。しかしながら、ムササビ、ニホンジネズミ、ヒミズ、カヤネズミなどの生息域が住宅地によって分断されていることや、土地開発により湿地などの環境が減少している中で生息種の存続が危ぶまれているものもいる。

表 5-1　生息記録のある哺乳類(1/2)

目名	科名	和名	学名	文献	資料	現地
ﾓｸﾞﾗ目	ﾄｶﾞﾘﾈｽﾞﾐ科	ﾆﾎﾝｼﾞﾈｽﾞﾐ	*Crocidura dsinezumi*	○	○	○
	ﾓｸﾞﾗ科	ﾋﾐｽﾞ	*Urotrichus talpoides*	○		○
		ｺｳﾍﾞﾓｸﾞﾗ	*Mogera wogura*	○	○	○
ｺｳﾓﾘ目	ｷｸｶﾞｼﾗｺｳﾓﾘ科	ｷｸｶﾞｼﾗｺｳﾓﾘ	*Rhinolophus ferrumequinum*	○		○
		ｺｷｸｶﾞｼﾗｺｳﾓﾘ	*Rhinolophus cornutus*			○
	ﾋﾅｺｳﾓﾘ科	ﾔﾏｺｳﾓﾘ	*Nyctalus aviator*			○
		ｱﾌﾞﾗｺｳﾓﾘ	*Pipistrellus abramus*	○	○	○
		ﾋﾅｺｳﾓﾘ	*Vespertilio sinensis*			○
ｻﾙ目	ｵﾅｶﾞｻﾞﾙ科	ﾆﾎﾝｻﾞﾙ	*Macaca fuscata*	○	○	○
ﾈｽﾞﾐ目	ﾈｽﾞﾐ科	ﾊﾀﾈｽﾞﾐ	*Microtus montebelli*	○		○
		ｶﾔﾈｽﾞﾐ	*Micromys minutus*	○	○	○
		ｱｶﾈｽﾞﾐ	*Apodemus speciosus*	○	○	○
		ﾋﾒﾈｽﾞﾐ	*Apodemus argenteus*	○	○	○
		ﾄﾞﾌﾞﾈｽﾞﾐ	*Rattus norvegicus*	○		○
		ｸﾏﾈｽﾞﾐ	*Rattus rattus*	○	○	○
		ﾊﾂｶﾈｽﾞﾐ	*Mus musculus*	○	○	○
	ﾇｰﾄﾘｱ科	ﾇｰﾄﾘｱ	*Myocastor coypus*	○	○	○
	ﾘｽ科	ﾆﾎﾝﾘｽ	*Sciurus lis*	○	○	○
		ｸﾘﾊﾗﾘｽ	*Callosciurus erythraeus*	○	○	○
		ﾑｻｻﾋﾞ	*Petaurista leucogenys*	○	○	○
ｳｻｷﾞ目	ｳｻｷﾞ科	ﾆﾎﾝﾉｳｻｷﾞ	*Lepus brachyurus*	○	○	○
ﾈｺ目	ｲﾇ科	ｱｶｷﾞﾂﾈ	*Vulpes vulpes*	○	○	○
		ﾀﾇｷ	*Nyctereutes procyonoides*	○	○	○
		ｲｴｲﾇ	*Canis lupus familiaris*	○	○	○

表 5-1　生息記録のある哺乳類(2/2)

目名	科名	和名	学名	文献	資料	現地
ﾈｺ目	ｱﾗｲｸﾞﾏ科	ｱﾗｲｸﾞﾏ	*Procyon lotor*	○	○	○
	ﾈｺ科	ｲｴﾈｺ	*Felis silvestris catus*	○	○	○
	ｸﾏ科	ﾂｷﾉﾜｸﾞﾏ	*Ursus thibetanus*		○	○
	ｲﾀﾁ科	ﾆﾎﾝｲﾀﾁ	*Mustela itatsi*	○	○	○
		ｼﾍﾞﾘｱｲﾀﾁ	*Mustela sibirica*	○	○	○
		ﾆﾎﾝﾃﾝ	*Martes melampus*	○	○	○
		ﾆﾎﾝｱﾅｸﾞﾏ	*Meles anakuma*	○	○	○
	ｼﾞｬｺｳﾈｺ科	ﾊｸﾋﾞｼﾝ	*Paguma larvata*	○	○	○
ｳｼ目	ｼｶ科	ﾆﾎﾝｼﾞｶ	*Cervus nippon*	○	○	○
	ｲﾉｼｼ科	ｲﾉｼｼ	*Sus scrofa*	○	○	○
	ｳｼ科	ﾆﾎﾝｶﾓｼｶ	*Capricornis crispus*	○	○	○
7目	18科	35種		31種	28種	35種

注)表中の「文献」「資料」の欄は、13-3-1 に示した「文献」「資料」に記載のあった種を示す。また「現地」については、2005～2013 年度に実施した現地調査で記録された種を示す。

５－２　岐阜市を代表する哺乳類

岐阜県内では、56 種の哺乳類の生息が確認されており、このうち、山地帯から高山帯を中心に生息する 11 種、森林に依存するコウモリ類 12 種の計 23 種を除く 33 種(イエイヌ、イエネコを除く)が岐阜市内で生息している。

前述のとおり、岐阜市はほぼ中央を北東から南東に流下する長良川を中心に平野部の大半が市街地や農耕地となっている。一方、市のほぼ中央には市のシンボルである金華山があり、自然植生が発達しているほか、市の北部一帯には二次林の発達する丘陵地が広がっている。こうした環境から、岐阜市に生息する哺乳類の多くは、里山環境に依存する種(ムササビ、ニホンテン、ニホンリス、ニホンアナグマ、アカギツネ、タヌキ、ニホンイタチ、ハタネズミ、カヤネズミ、ニホンジネズミ、ヒミズ、キクガシラコウモリなど)によって構成されている。

また、特定外来生物の哺乳類としてヌートリア、クリハラリス、アライグマが、その他の外来生物[17]としてハクビシンが挙げられる。

５－３　重要な哺乳類

岐阜市内で確認されている重要な哺乳類[18]は、表 5-2 のとおりヤマコウモリ、ヒナコウモリ、カヤネズミ、ニホンカモシカの 3 科 4 種である。このうち、ヤマコウモリとヒナコウモリは完全な森林型ではなく、市街地周辺の社叢や民家周りにも生息する比較的適応力の高い種であるが、確認記録は非常に少ない。カヤネズミは草地環境を好み、市内では河川敷や耕作地周辺の草地などで確認されているが、確認場所は限定的で、湿地の保護とともに保全を検討する必要がある。ニホンカモシカは、近年その生息域を拡大しつつあるが、特別天然記念物ということで今後も保護が必要である。

[17] その他の外来生物：「外来種ハンドブック」(日本生態学会，2002)

[18] 重要な哺乳類：以下の 6 文献に記載のある種を対象とした。

- 「文化財保護法」:「文化財保護法」(法律第 214 号，昭和 25 年 5 月 30 日)および文化財保護法に関する条例
- 「種の保存法」:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(法律第 76 号，平成 4 年 6 月 5 日)
- 「県条例」:「岐阜県希少野生生物保護条例」(岐阜県条例第 22 号，平成 15 年 3 月)
- 「市条例」:「岐阜市自然環境の保全に関する条例」(岐阜市条例第 20 号，平成 15 年 3 月)
- 「環境省 RL」:「環境省レッドリスト-哺乳類-」(環境省，2012 年)
- 「県 RL」:「岐阜県レッドリスト-動物編-」(岐阜県，平成 21 年 3 月)

このほか、現時点では重要種として挙げられていないが、ムササビについても生息場所が限定されており、何らかの保全対策が必要である。

重要な哺乳類の概要・分布状況については、表 5-3 のとおりである。

表 5-2　生息記録のある重要な哺乳類

科名	和名	文化財保護法	種の保存法	県条例	市条例	環境省RL	県RL
ﾋﾅｺｳﾓﾘ科	ﾔﾏｺｳﾓﾘ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
	ﾋﾅｺｳﾓﾘ						絶滅危惧Ⅰ類
ﾈｽﾞﾐ科	ｶﾔﾈｽﾞﾐ						準絶滅危惧
ｳｼ科	ﾆﾎﾝｶﾓｼｶ	特別天然記念物					
3科	4種	1種	0種	0種	0種	1種	3種

注)表中の各カテゴリーの内容については、以下のとおりである。

文化財保護法　　特別天然記念物：天然記念物のうち、世界的にまた国家的に価値が高いとして指定されたもの。

環境省 RL　絶滅危惧Ⅱ類：(VU)、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。

県 RL　　絶滅危惧Ⅰ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。

準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。

表 5-3　重要な哺乳類の概要等(1/2)

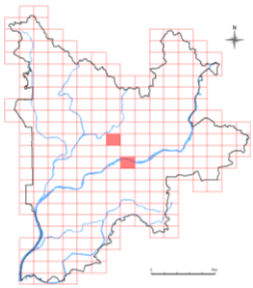
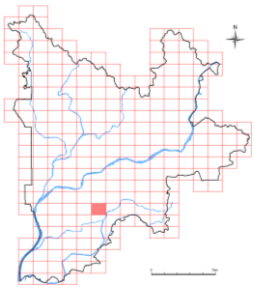
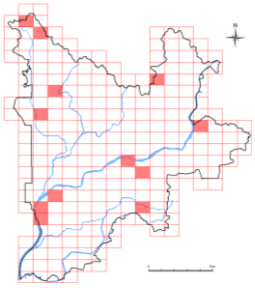
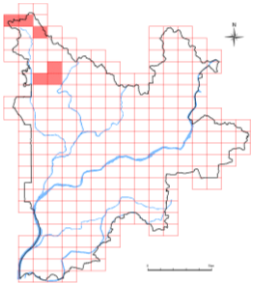
種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
ヤマコウモリ *Nyctalus aviator* 脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 哺乳綱 (MAMMALIA) ｺｳﾓﾘ目 (CHIROPTERA) ﾋﾅｺｳﾓﾘ科 (Vespertilionidae) 環境省RL:絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL:絶滅危惧Ⅰ類	**【種概要】**日本の小型コウモリ類の中で最大種で翼を広げると40cmにも達する。背面の体毛は先端・基部とも明るい茶色で、光沢を帯びる。前腕長58～65mm、頭胴長89～113mm,尾長51～67mm、体重26～61g。北海道、本州、四国、九州、対馬、壱岐、福江島、沖縄島。近年は北海道、本州近畿以北、対馬、壱岐、福江島、沖縄島に限られている。市街地の社寺や公園の大木から原生林まで広く生息する。ケヤキ、ブナ、スギなどの大木の樹洞に群れですむ。日没近くになるとキチキチと鳴く。タマバエ、ガ類、甲虫類などの飛翔昆虫類を捕食する。 **【県内分布】**大野郡白川村馬狩、大野郡白川村大白川、郡上市白鳥町為真で確認記録がある。 **【市内分布】**保護された個体のねぐらは岐阜市福光の民家、その周辺4キロ以内の神社と森林。		 撮影:梶浦敬一
ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* 脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 哺乳綱 (MAMMALIA) ｺｳﾓﾘ目 (CHIROPTERA) ﾋﾅｺｳﾓﾘ科 (Vespertilionidae) 岐阜県RL:絶滅危惧Ⅰ類	**【種概要】**中型の大きさで暗褐色の体毛に白っぽい長毛が混じって霜降り状に見える。樹洞や海蝕洞を利用するほか神社や学校、民家などの建物物や屋根裏や間隙をねぐらとして利用している。前腕長45～54mm、頭胴長60～76mm、尾長33～47mm、体重13～29g。出産哺育コロニーをつくる雌親は樹洞で数十頭、建造物では4,000頭を超えることもある。 **【県内分布】**高山市荘川町尾上郷、大野郡白川村馬狩で記録ある。 **【市内分布】**保護された場所は岐阜市加納の民家で、右前腕骨が折れており皮膜も穴が開いていた。		 撮影:山本輝正
カヤネズミ *Micromys minutus* 脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 哺乳綱 (MAMMALIA) ﾈｽﾞﾐ目 (RODENTIA) ﾈｽﾞﾐ科 (Muridae) 岐阜県RL:準絶滅危惧	**【種概要】**低地から標高1,200mあたりまで広く生息分布している。通常、草地水田、畑,沼沢地などのイネ科が密集し、水気のあるところに多い。水面を泳ぐ。鳥が作るような巣を作り、巣材にはススキ、チガヤ、ゴウソなどがもちいられ、巣のある高さは50～110cmで晩春と初冬には低く、夏～秋に高い。冬季には地表の堆積物や地下に坑道を堀り、種子や昆虫もたべる。繁殖は年2回ほどする。生まれる仔の数は4～5頭である。背面は暗褐色で腹面は白色である。成体は頭胴長50～80mm、尾長61～83mm、後足長14～16.7mm、体重7～14g。 **【県内分布】**飛騨地方の一部地域、美濃地方の中濃および東濃西濃地域などに確認記録がある。 **【市内分布】**長良川河川の草地、北西部、北一色等での生育記録がある。		 撮影:梶浦敬一

表 5-3　重要な哺乳類の概要等(2/2)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
ニホンカモシカ *Capricornis crispus* 脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 哺乳綱 (MAMMALIA) ウシ目 (ARTIODACTYLA) ウシ科 (Bovidae) 文化財保護法:国指定特別天然記念物	**【種概要】**ウシ科の中では原始的な形態を示す。成体の肩高は70～75cm、体重は30～45kg。雌雄ともに円錐形の角をもつ。本州、四国、九州に分布する日本固有種で、近年、東北地方や中部地方を中心に分布を拡大している。低山帯から高山帯にかけてのブナ、ミズナラなどが優占する落葉広葉樹林を中心に生息し、木本類の葉、草本類、ササ類などを食する。1955年に国の特別天然記念物に指定された。 **【県内分布】**中・北部の山岳地を中心に広く分布しており、県全域の丘陵地にも分布域が広がってきていることが確認されている。 **【市内分布】**北西部の外山・雛倉地区と則松・安食の山に生息記録がある。移動個体が百々ケ峰でも確認されたことがある。		 撮影:梶浦敬一

５－４　外来生物法などに係る哺乳類

岐阜市に生息している哺乳類のうち、外来生物法に係る哺乳類としては、表 5-4 のとおりヌートリア、クリハラリス、アライグマの 3 種で、いずれも特定外来生物に該当している。

このうちヌートリアは、戦時中東京から疎開して日野などで飼育された経過がある。現在岐阜市内の河川を中心にほぼ全域で生息が認められるが、これらは昭和 34 年に愛知県西部にあったヌートリア組合が解散した後、木曽川、長良川を経由して 1970 年代に岐阜市へ侵入、生息を広げてきたものである。

クリハラリスは昭和 11 年に現在の岐阜公園で開催された躍進大博覧会会場から逃げ出して野生化したもので、これまでに金華山、上加納山、洞山、船伏山、三峰山まで生息が確認できている。岐阜公園に動物が飼育されていたころ、その餌を食べていたことや観光客の餌やりなどで個体数が増加していたが、平成 11 年に動物舎が解体された後、餌不足もあってか個体数の減少がみられるものの、客観的なデータは無い。

アライグマは、1962 年に愛知県犬山市のモンキーセンターから 13 頭が逃げだし、1985 年 3 月に日本で最初に帰化が確認された。岐阜市内で最初に生息が確認されたのは、1985 年 10 月に長森で保護された個体で、以降およそ 29 年が経過した現在、岐阜市内の市街地も含めほぼ全域で生息している。

外来生物法などに係る哺乳類の概要・分布状況については、表 5-5 のとおりである。

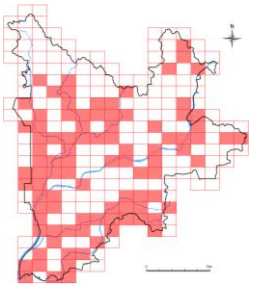
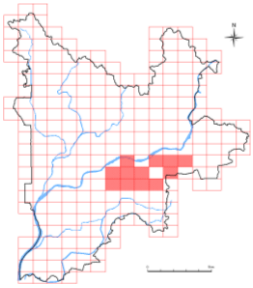
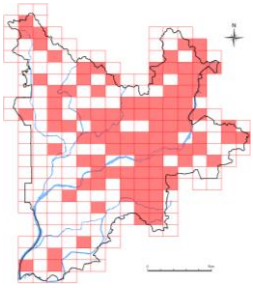
表 5-4　生息記録のある外来生物法などに係る哺乳類

科名	和名	外来生物法
ﾇｰﾄﾘｱ科	ﾇｰﾄﾘｱ	特定外来生物
ﾘｽ科	ｸﾘﾊﾗﾘｽ	特定外来生物
ｱﾗｲｸﾞﾏ科	ｱﾗｲｸﾞﾏ	特定外来生物

注)表中の各カテゴリーの内容については、巻末の用語説明を参照のこと。

外来生物法　　特定外来生物：外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるもの

表 5-5　外来生物法などに係る哺乳類の概要等

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
ヌートリア *Myocastor coypus* 脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 哺乳綱 (MAMMALIA) ﾈｽﾞﾐ目 (RODENTIA) ﾇｰﾄﾘｱ科 (Myocastoridae) 外来生物法:特定外来生物	**【種概要】**南アメリが原産で、岐阜県には昭和17年に4頭飼育され、戦時中各務原市、関市、岐阜市でも飼育された記録がある。 昭和34年愛知県西部でヌートリア飼育場が閉鎖された以降、東海地方では河川へ逃げ出し野生化した記録がある。年2～3回出産し平均5頭、仔は6～7ヶ月で成熟する。体重7kg、頭胴長680～700mm、尾長390mm、後足長130mm，大きなドブネズミのような体つきで，目や耳は小さく尾は円筒状。後足の第1指から第4指の間に水掻きがある。 **【県内分布】**中濃では郡上市、東濃地域では中津川市、西濃では北部を除いて全域に確認記録がある。 **【市内分布】**岐阜市内では丘陵地を除く全域に生育記録がある。		 撮影:梶浦敬一
クリハラリス *Callosciurus erythraeus* 別名:タイワンリス 脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 哺乳綱 (MAMMALIA) ﾈｽﾞﾐ目 (RODENTIA) ﾘｽ科 (Sciuridae) 外来生物法:特定外来生物	**【種概要】**中国南東部、台湾にかけて分布する。昭和11年岐阜公園で開かれた博覧会場から逃げ出したものが生息している。 頭胴長20～22cm、体重360g前後、尾長17～20cm、背面は黒と黄土色の霜降りで、腹面は淡い黄土色である。樹木の種子、栗、イチジク、柿、葉、樹皮を菜食する。昼行性であるが、自動カメラによる記録では夜間も行動している。木の枝の間に小枝を集めて丸い巣を作る。年1回～3頭の仔を出産する。 **【県内分布】**明智町で逃げ出して野生化した情報があるが、まだ現地での写真等での確認できていない。 **【市内分布】**金華山一帯で舟伏山、三峰山で生息記録がある。		 撮影:梶浦敬一
アライグマ *Procyon lotor* 脊索動物門 (CHORDATA) 脊椎動物亜門 (VERTEBRATA) 哺乳綱 (MAMMALIA) ﾈｺ目 (CARNIVORA) ｱﾗｲｸﾞﾏ科 (Procyonidae) 外来生物法:特定外来生物	**【種概要】**原産地はカナダ南部からパナマで1962年犬山市の研究施設から逃げだし、可児市では捕獲後家庭で飼育・放遂した経緯がある。犬山市や可児市内で自然界で繁殖、日本に最初に帰化した。 雑食性で、果実、昆虫、魚、養鶏場の鶏なども食べる。住宅や空き家の屋根裏で住み着くほか、野外では岩場の割れ目、水路内までに生息している記録がある。頭胴長50～60cm、尾長30～40cm、体重6～7kg。体毛は灰白色の毛で目の周囲にはっきりした黒いマスク模様がり、尾には黒の輪模様がある。 **【県内分布】**飛騨地方の一部地域、美濃地方の中濃および東濃地域、西濃などに確認記録がある。 **【市内分布】**市街地と丘陵地全域に生育記録がある。		 撮影:梶浦敬一